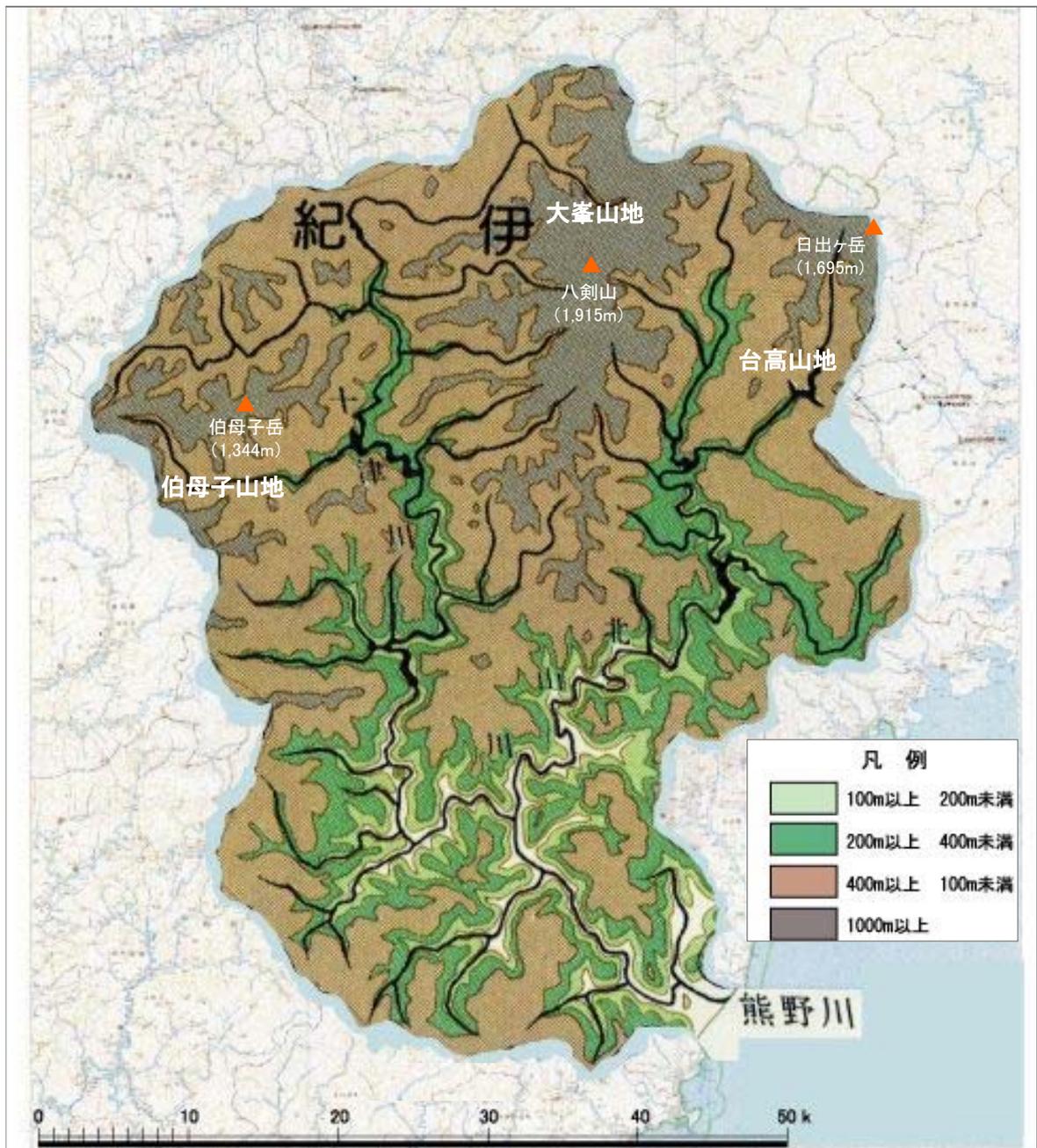


1-2 地 形

流域の地形は、中央部に八剣山^{はっけんざん}（1,915m）を主峰とする大峯山地^{おおみねさんち}が南北に走り、東側に日出ヶ岳^{ひでがだけ}（1,695m）を主峰とする台高山地^{たいこうさんち}、西側に伯母子岳^{おぼこだけ}（1,344m）を主峰とする伯母子山地^{おぼこさんち}が南北に走っている。熊野川流域は「近畿の屋根」とも呼ばれるこれらの急峻な山岳地帯からなり、平野は海岸部の一部にしか見られない。熊野川及び北山川は三つの山地の間を屈曲しながら流下し、熊野灘に至る河川である。また、河口部には砂州が発達している。

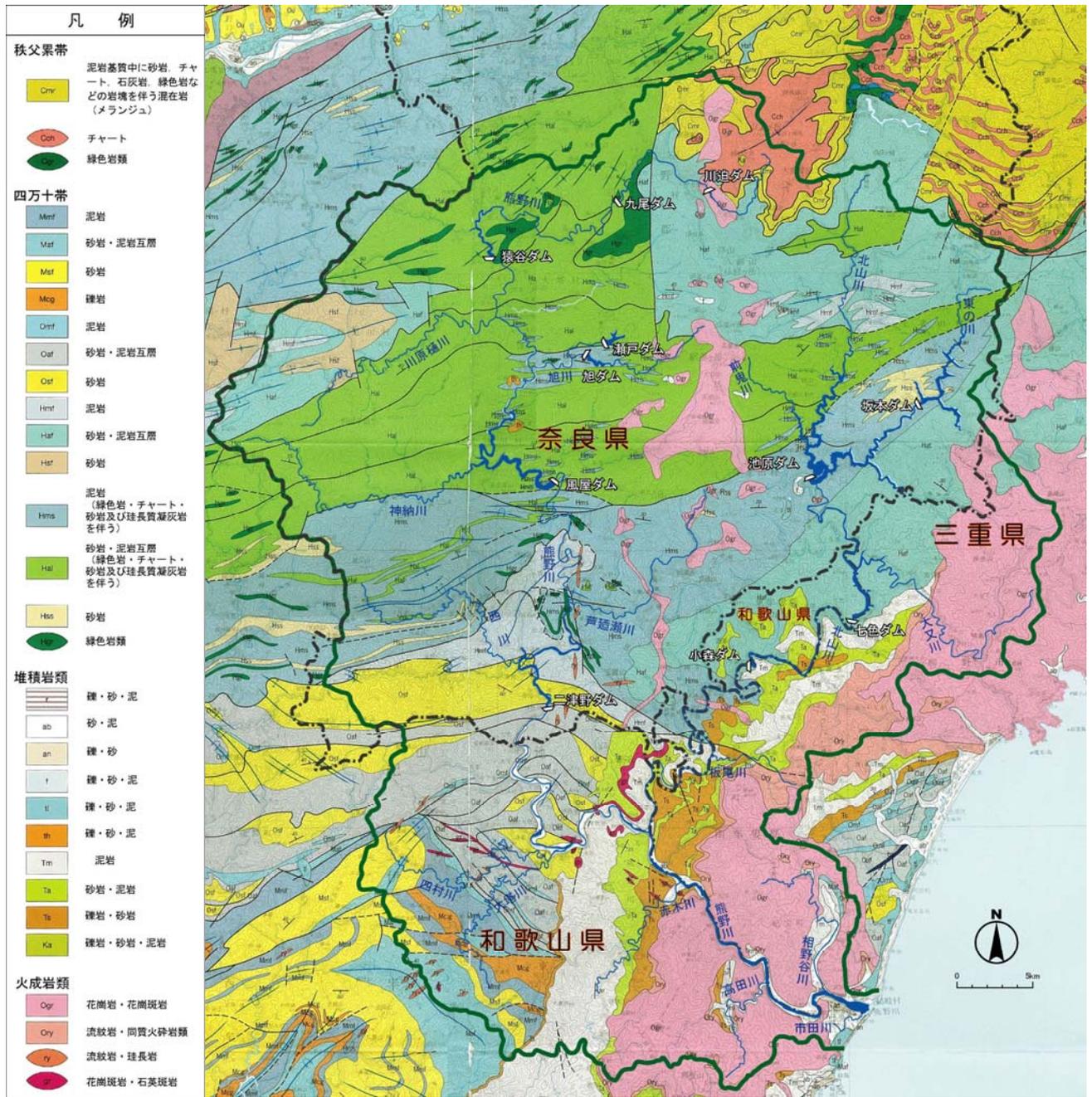


出典：「近畿地方土木地質図」／近畿地方土木地質図編纂委員会刊（1981）

図 1-2 熊野川流域の地形

1-3 地 質

流域の地質は、流域北部に秩父累帯^{ちちぶるたい}、中央部に四万十帯^{しまんとたい}が広く分布し、風化が進み崩壊箇所が多く見られる。流域南部には、新期花崗岩類^{しんきかこうがんるい}の火成岩類^{かせいがんるい}や熊野層群^{くまのそうぐん}の堆積岩類^{たいせきがんるい}が分布し、川沿いには特徴的な柱状節理^{ちゅうじょうせつり}が見られる。



出典：「近畿地方土木地質図」／近畿地方土木地質図編纂委員会（2003）

図 1-3 熊野川流域の地質

1-4 気候・気象

流域の気候は、温暖多雨の^{なんかいきこうく}南海気候区に属し、本州有数の多雨地帯である。降水量は多いが、晴天日数、日照時間にも恵まれており、一降雨あたりの降水量が多い。流域の年平均年降水量は、約 2,800mm であり、我が国の平均値の約 1.6 倍となっている。また、流域内では、西側に比べ海岸に近い東側で降水量が一層、多くなっている。平均気温は上流部の上北山観測所で約 14℃、下流部の^{しんぐう}新宮観測所で約 17℃となっており、新宮などの海岸部は近畿地方では最も温暖な地域となっている。

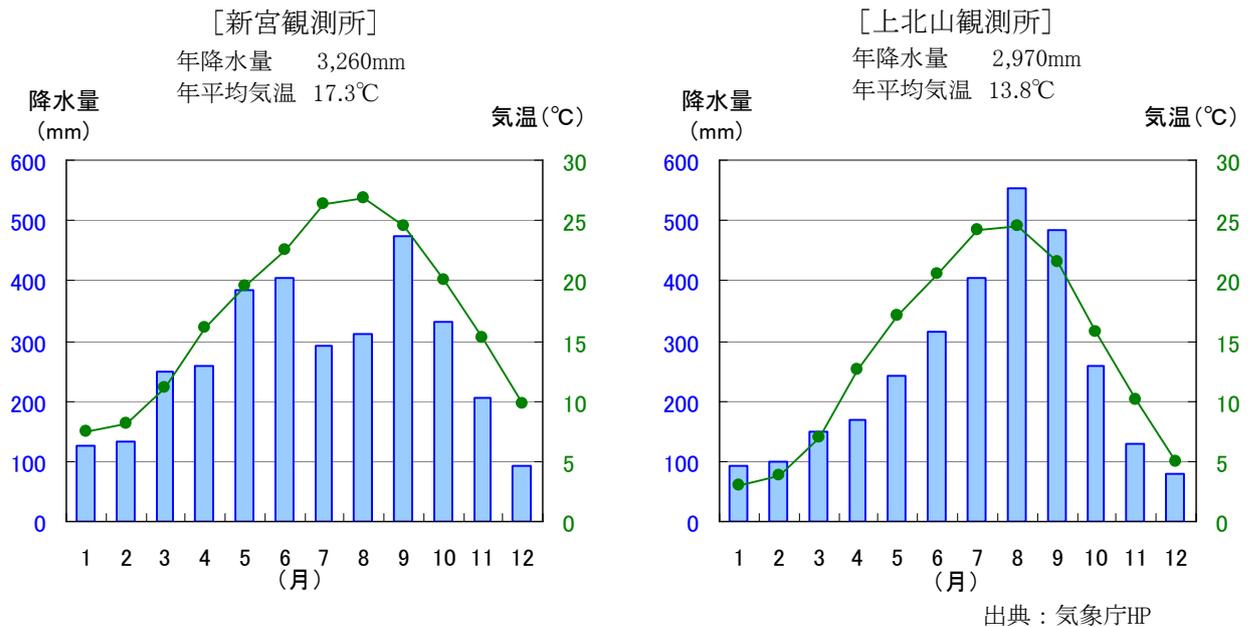


図 1-4 月別降水量と平均気温（1997～2006 の平均値）

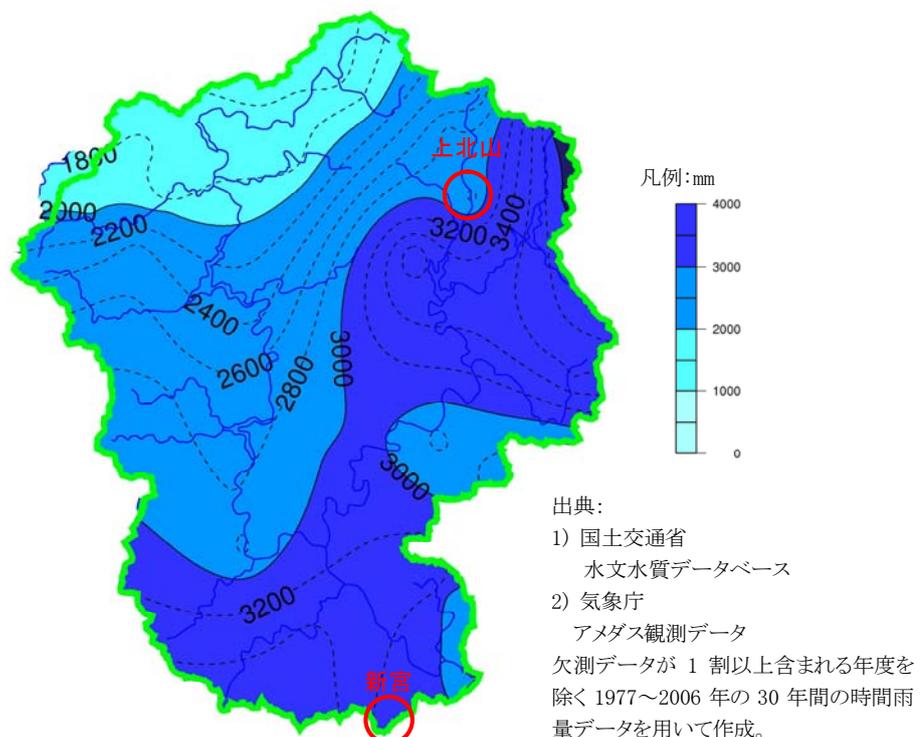


図 1-5 年間降水量の分布（1977～2006 年の平均値）